

ライブハウスを熱くする

デビューNOW

創刊号4/20号

NIGHT SPOT 112 PLACE in TOKYO

ライブハウスを遊泳せよ!

六本木特集

六本木周辺で活動する
10組のアーティストを直撃!!

Pick up artist

MANAMI

77色

The six-shooter

Naughty Brats

森本真一郎

HOP COASTERS

Glitz Cafe

ビキニライン

SPANK-A-LEE

Peace box





Pick up artist **MANAMI** INTERVIEW



永遠に生きるかのように夢を見て 今日死ぬかのように生きる

<http://www.mixspro.com>

「私は歌える」

MANAMIが初めてそう思ったのは4歳の時。当時大流行中だった「めだかの兄弟」をテレビに合わせて歌った時のことだった。

「私こそ歌手になるべき」。そう信じた少女は、今、イギリスデビューを目前に控え自分の信じるROCKを発信し、ROCKに心震わす日々を過ごしている。

15歳で作詞・作曲を始め、1年かけて音楽への想いを募らせ続けたある夜、ふと心に浮かんできた光景が、彼女の初めての完成曲のもととなる。

親の影響もあり、洋楽に囲まれて育ったMANAMIが、自身もアーティストとして、大好きな英語の詞をそのまま理解したいと願ったのは当然のことだ。なにしろTHE USEDのBert McCrackenを神様と仰ぎ、The Cooper Temple ClauseやHIMに浸っているのだから。

バンド活動をしながら英会話スクールに通い、英語で曲を作るようになり、約3年ほどの間に200の曲を書きためた時、現在の所属事務所に出会う。

2005年10月にソロとしての初ライブを敢行。周囲の誰もが合格点を出したライブをスタートラインとして、彼女はさらなるアグレッシブさで前進を続けた。

イギリスのレコード会社にランダムにメールを送り、何件かの好意的な返事だけを頼りにイギリスへ。ライブハウスのオーナーやレコード会社の人間との出会いを積極的に求めた結果、マンチェスターのライブハウスでの出演の約束と、レコードデビューという成果を手にした。

「イギリスではとにかく必死でした。デビューが決まってよかったというよりは、何も結果が出なければ日本に帰れないという気持ちが大きかったから」。

この大胆不敵とも思える積極性が、彼女の生き方であり、アーティストとしての彼女を支えていると言えるだろう。そして同時に、約束の地となったイギリスで買い求めたノートに、自分の内なる赤裸々な想いを書き綴るといふ繊細な一面も持ち合わせる。

そんなMANAMIの伝える歌は「人生とか恋愛についての曲が多いです。たとえば、難

民とかのドキュメンタリーなどを見て、自分はまだまだ幸せだと気づく瞬間がありませんよね。そんなふうには、平凡な毎日の中で忘れかけている大切なことがたくさんあるはず。そういう気持ちを歌にして伝えていきたい。聴いてくれる人が、それぞれ何かを思い出したり、感じたりしてくれたらうれしい。私が、音楽にそれをもらって生きてきたから」

メッセージ性の強い曲が多いのは、そんな彼女の素直な気持ちの表れだ。現在は今年9月のアルバム発売に向けて曲作りに専念する毎日。もちろんライブも活発化する。

「自分の周囲が急に慌ただしく動き出して、興奮しながら、ある部分冷静になるような不思議な気分です。北欧メタル系のジャーナリストのホームページに紹介されて、私のホームページに4時間に6000人のアクセスがあったり、忘れられないことがいっぱい。でも一番心に残っているのは、ライブでお客さんが涙を流して聴いてくれたこと。これからも、ただ歌うだけでなく、老若男女問わず、カッコいい、真似したいと言われるアーティストを目指します」。

Pick up artist

Pick up artist に登場するのは、メジャーデビューをめざして、日々アルバイトなどしながら活動を続けているアーティストです。ぜひ彼らのライブパフォーマンスを見てやってください。

Peace box



来れば必ず笑顔になれるライブ、あります

Vo・tomommy/G・SHIGE/B・wRYO-chan
Dr・KOTARO/Key・M3

「ライブができるバンドが目標」というように、終始一貫して自然体。しかし、それは同時に基本をとことん大事にすることにもつながる。「演奏を生で聴かされる。CDよりも生がよく聴こえる」、それがPeace boxが目指すライブができるバンドの真意だ。演奏は存在感を出し過ぎずいい仕事をし、ボーカルが通る曲を。人に受け入れてもらうためにはボーカルを口ずさんでもらえることが大切だと考えるからだ。SHIGE作曲、tomommy作詞の作品は、

POPな曲調に乗せて女の子の素直な気持ちを、主に恋愛をテーマに歌い上げるものが多い。「前向きな気持ちになれるライブができるよう頑張ります。いい曲を作り続けて…やってる私たちもお客さんも楽しいライブをしますので、ぜひ遊びに来て」

information

4/2 赤坂・FUN

5/14 原宿・RUIDO

現在CDをレコーディング中。ライブとネットで購入可。詳細はホームページで。

<http://http://www.geocities.jp/peaceboxwebsite/>
<http://www.geocities.jp/peaceboxmobilesite/>

SPANK-A-LEE



音楽で問題提起できる世界一のバンドに

Vo・Vo&B・武藤“ファック”弘樹/
Dr・森真之介/G・斉藤うつ

大学のフュージョンサークルで出会った3人。寝食を共にするように同じ時を共有する中で、緩やかに開始されたバンド活動が、その魅力によって押し出されてきた。そんなプロフィールからのイメージに反するように、そのサウンドは心に強く訴えかけてくるよう。16ビート系から出発し、ファンキーでダンスンブルという根本を共通点に基礎を固めつつある、そんな広がりともまとまりが最高の形で活かされている。ボーカルのカリスマ性、勢いのよさ、ドラム

の卓越したテクニック、バンドをしっかりと支えながら心地よく音を奏でるギター。それらが一体となって、ストレートでカッコいいライブ空間を作り出す。現在までの曲はすべて武藤の作詞作曲だが「これからは3人で曲を持ち寄ってケンカしながらやっていきたい」。広がる可能性を心待ちにするファンも多い。

information

3/21 六本木・EDGE

<http://www.spank-a-lee.com>

77色



体全体でアピールし続けるライブを

Vo・瞬/G・一憲/B・啓介/Dr・倫太郎

メンバー全員の個性の強さがウリという77色(なないろ)。ライブでは、みんながMCを担当することも。「音楽はもちろんだけど、それぞれのキャラクターの人間的な部分も見たい」という言葉からもそれがうかがえる。

曲は主に啓介が作り、作詞は瞬。「コラボの力で聞く人の心に届く作品」を目指し、曲作りの際は、納得できないことはとことん話し合う。「たとえその場の雰囲気が悪くなるうとも、最終的にいいものができ

ばいい」からだ。歌って踊って笑いをとるボーカリストが、メンバーの想いを、人生を音楽で伝える。観客を飽きさせないライブを追求し、メジャーデビューして、たくさんの人に聴いてもらえることが、77色の今の目標だ。

information

3/27 六本木・EDGEに出演するかも?

<http://hp.tcup.jp/nanairo/>

the six-shooter

リスナーが共感する曲を自分たちのスタイルで

Vo&G・KENZI/G・KAZ
B・KOH/D・コーチ



KENZIが作詞を担当し、メンバー全員で曲を作り上げる。それは狭い価値観に捕らわれず、各々のアイデアをいちばんいい形で活かすためだ。自分が生きてきた中で、結果的に離れなかったもの、最後まで残ったもの、それが音楽だったという人間が集まって現在の形に。

普通リスナーが入りやすい曲、しかし流行に流されることなく自分たちのスタイルをも表現する曲がThe six-shooterの持ち味。フレンドリーロックともいふべき、

観客とともに楽しむハードロックPOPSを中心に、動きのあるステージを目指す。

「目標はエンタテイメント的な、祭りのようなライブ。本質の音楽を楽しみながら騒げるような」。この業界に生きた証を、どのような形でもいいから残す。そんな決意を胸に活動が続ける。

information

4/2 六本木・EDGE

<http://www.six-shooter.net/ie/v>

Naughty Brats

空間がひとつになる感動をライブで演出

Vo&G・前垣雄大/B・織田聡
Dr・大島一紀



「サウンドを聴いて心を動かし、そして歌詞にも注目してほしい」。自分たちの曲でメンタルな感情に訴えていきたいという前垣。ライブでもいろいろなものを感じ取ってもらえればうれしいという。「聴けばすぐにNaughty Bratsだとわかるような、自分たちらしさを前面に出していきたいですね」。歌詞にもこだわりがあるだけに、意識的にいろいろなものに触れている。「ひとつの言葉や曲のレフがフックになって広がっていくといい」。

目標はカッコいいといわれるバンド。ライブで元気や感動を与え、どこに出ても満員御礼というような。そしてサマーフェスのような機会に、世界のアーティストと肩を並べられるような。そのために「ひとつも嘘がないように、心に正直である作品で、自分たちの世界観を出していきたい」。

information

3曲入りのCDができたてほやほや。詳細はホームページで。

http://www.geocities.jp/web_naughtybrats/

森本真一郎

ギター、ピアノ、ハーモニカを自在に操り、アコースティックなサウンドと心を揺さぶる歌詞でファンを魅了する森本真一郎。

「いつもテーマを決めて曲作りにかかります。題材は、ほとんど自分の心の動きや体験です」。バンド活動を経て2005年から念願のソロ活動を開始。日本中をヒッチハイクしながらストリートライブをしてまわった経験も持つ。「うれしいのは、僕の歌を聴いて情景が見えると言われたとき。自分が感じた音楽によって心動かされる感じを、

僕の歌で聴く人に感じてほしい」。いつまでも変わらず自分スタイルでやってるな。何十年か後にそう言われるよう、信じる音楽を奏で続けていく。

information

3/21 四谷・天窓

4/15 お茶の水・KAKADO

5/2 ついに念願のワンマンライブ!! 六本木・EDGE初のアコースティックワンマンライブが決定。

目の前で
ていねいに歌う
そして心を動かし
たい



<http://www4.point.ne.jp/~shinichiro.m/>

Pick up artist

HOP COASTERS

とにかく見てくれ! ハイテンションなこのライブ!?

Vo・KAZUMAX/G・秀吉/B・U-E/Dr・tatsuya*spark



好きなアーティストはジミ・ヘンドリックスから横浜銀蝸まで。メンバー全員がバラバラの趣味をもちながら、原点はPUNKで一致。だからPUNKがベースのFUNKをみんなでワイワイやりながら作り続ける。「老若男女が楽しめるグルーブ感のあるライブを楽しんでやっていきたい」。そんな言葉通り、ライブハウスはもちろん、ストリートでも積極的にゲリラ的ライブを敢行。観客と共有したいのは「くもりなく楽しい想い」。脱クールで観客を巻き込む自分た

ちのスタイルで勝負する。それぞれの中からあふれてくるものを、その場でセッションして組み立てていく曲たち、まずはライブで聴くべし。

information

1stミニアルバム・スーパーハイテンションが好評発売中。詳細はホームページで



<http://www.hop-coasters.com>

Glitz Cafe

音楽を通じ癒しの場を作り上げることが願う

VVo&G・ひす兄/B・TAKU/Dr・Kei



POPなROCKとPUNKの融合。それがGlitz Cafeのサウンドだ。ライブを想定されて作られる曲は、テンポ早く元気に、想いを曲に乗せて聴かせることが意識されている。理想は「お客さんも一緒にステージに上がって盛り上がるライブ」。すでにそのような一体感を体験し「もう、音楽がないことは想像できない」。「売りたいという欲張りみたいだけれど、たくさんの人の前で歌いたいという気持ちは当然のこと。お客さんにも、いつも言うんです。必

ず一緒に大きなところに行くからって」。先端いる、可能性を感じる、見聴きする人の気持ちを引っ張り癒すバンドを目指し、内なる気持ちを音楽に変えて届けていく。

information

4/21 六本木・EDGE

ライブではCDを無料配布。ライブ会場ですたンプを集めるとプロモーションDVDももらえる。

インターネットラジオでサウンドをチェック!!<http://www.cubichouse.com>

<http://geocities.jp/glitzcafe@ybb.ne.jp>

ビキニライン

好きな音楽を好きなように多くの人に届けたい

Vo・Ricky/G・Hiro Izumi
B・八島寛文/Dr・Kazu64

Funkをもとにして、なんでも試せるバンド。「やってみたいことがいろいろある」からミックスチャーがスタイルになっている。「何か起こるかかわからないワクワク感がある。曲がカッコよくて歌詞が素晴らしいバンド」を目標に「常識にとらわれない本質的な部分を表現できたら」。

そんな言葉通り、型に縛られず、のびのびと素直な気持ちが乗った率直なサウンドが印象的だ。「ライブでお客さんに伝わったことが確信できたときが一番うれしい」。

1人でも多くの人に声を聴いてもらい、聴いた人の何かが変わるきっかけになることを目指し、ライブでの確かな手応えを積み重ね続けている。

information

3/31 渋谷・屋根裏

4/29 六本木・EDGE

<http://bikiniline.nobody-jp>

